

1986年のスギ花粉前線

佐橋 紀 男 *

The Pollen Front of *Cryptomeria japonica* in 1986

Norio SAHASHI *

*School of Pharmaceutical Science, Toho University,
Funabashi, Chiba Pref. 274, Japan*

A pollen front of *Cryptomeria Japonica* in 1986 was described. At the middle in February, the earliest area of the pollen front was shown at Kyushu and southern parts of Honshu. The latest area was in northern part of Honshu at the end of March.

長野ら⁽¹⁾により1976、1977年のスギ花粉前線の報告がなされてから全国的な規模でその後の報告はされていない。この数年間の異常なまでのスギ・ヒノキ科花粉の飛散数の増加は春先きの花粉症患者数の増加や症状悪化の根源となっており、花粉症予防や治療の面から、毎年全国的なスギ花粉飛散開始日(花粉前線)を調査しておくことが益々必要となってきた。そこでこれまでに空中花粉の調査を継続して行なっている研究施設や、個人の多くの方々に協力を仰ぎ今年のスギ花粉前線を不完全ではあるが図1のごとく作製した。

調査地点の位置は図2に示し、調査地点の地名や施設名は表1に図2の番号順に記載した。また各施設の調査協力者名は表2に示してある。今回は関東中心のものになったが、年々新しい協力者を切望し、東北、北陸、四国、九州地域のデータ収集に努めたい。

スギ花粉の調査は重力法のダーラム型(米国標準花粉採集器)で行い、表1の調査地点のなかで番号3、12、14—16、18、19、28の施設では筆者ら⁽²⁾の考案

したロータリー型(IS式ロータリー花粉採集器)も同時に使用した。標準スライドの交換は原則として毎日行い、表1中の飛散開始日の決定はプレパラートの調査面積1cm²中の花粉数が1個以上(多くの施設の場合3.24cm²中の花粉数を換算)となった最初の日としたが、この日から1週間の飛散数を検討し、できるだけ正確な飛散開始日を求めた。

従来のダーラム型は春先きの風の強い条件下では空中花粉の採集効率が大変悪い。そこで風によって運ばれてくる花粉を効率良く採集することのできるロータリー型が理想的で欧米では体積法にも使用されている。筆者らの考案したIS式ロータリー型はダーラム型と比較して4~10倍の採集効率がある。今回表1の8地点のダーラム型との同時調査では平均して3日ほどロータリー型が早い飛散開始日を測定した。

今後の調査方法の課題としてはプレパラートの調査面積を統一し、花粉の採集個数の誤差を最少限とする。理想としては北海道から沖縄県まで調査地点に含める

* 〒274 船橋市三山2-2-1 東邦大学 薬学部

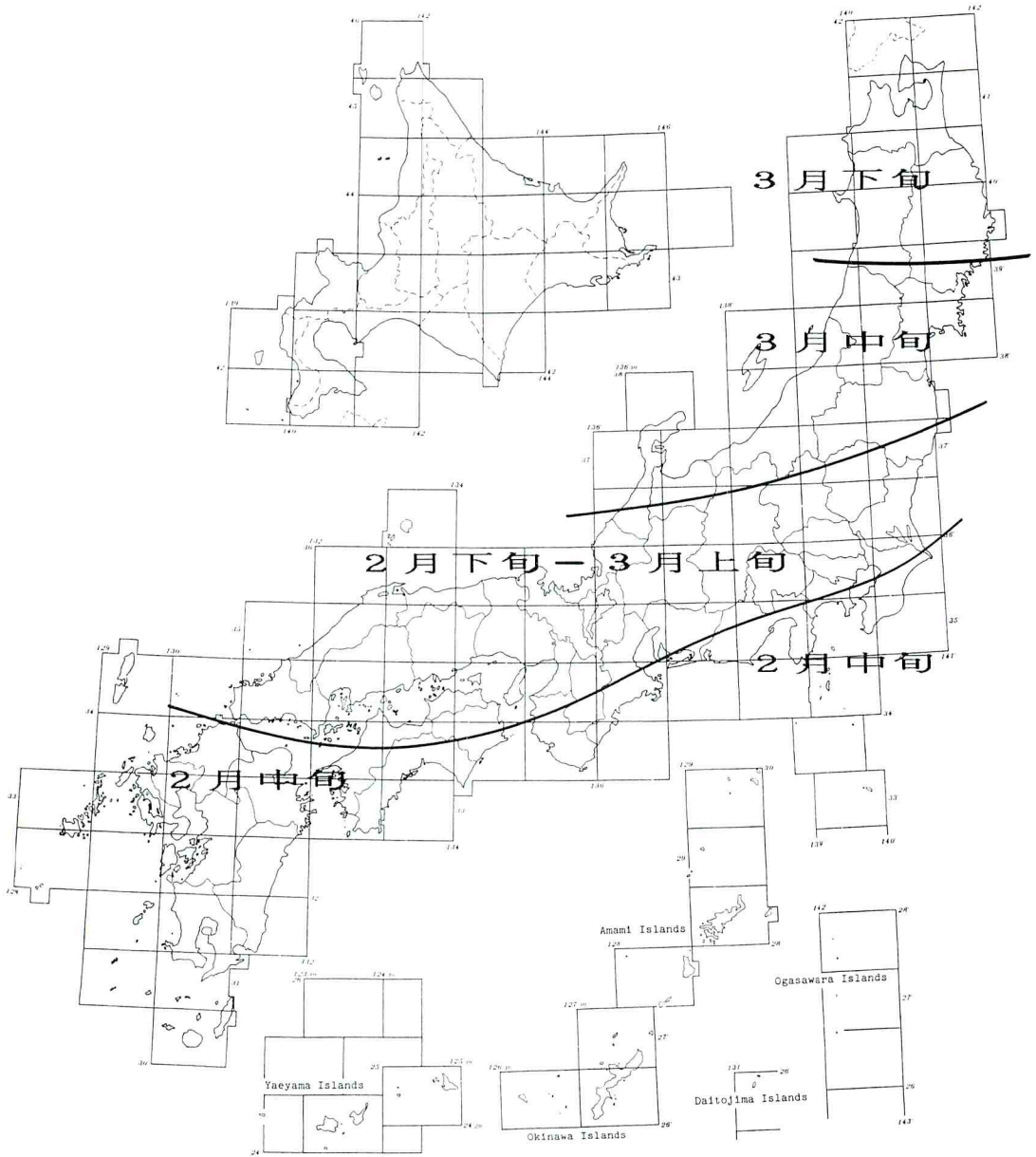


図1. 今年（1986）のスキ花粉前線

こと。近い将来に体積法（バーカード花粉採集器）⁽²⁾を主体とした調査方法にすること。このことが欧米の調査に匹敵する結果を得ることのできる花粉症予防対策の責務と考える。

終りに本調査をまとめるにあたり心よく最新のデー

タを送って下さった各調査施設の協力者の方々、および花粉症発症の情報提供をして下さった多くの医師の方々に深く感謝致します。また本調査に便宜を与えて下さったサンド薬品とキッセイ薬品の学術部の方々に謝意を表します。

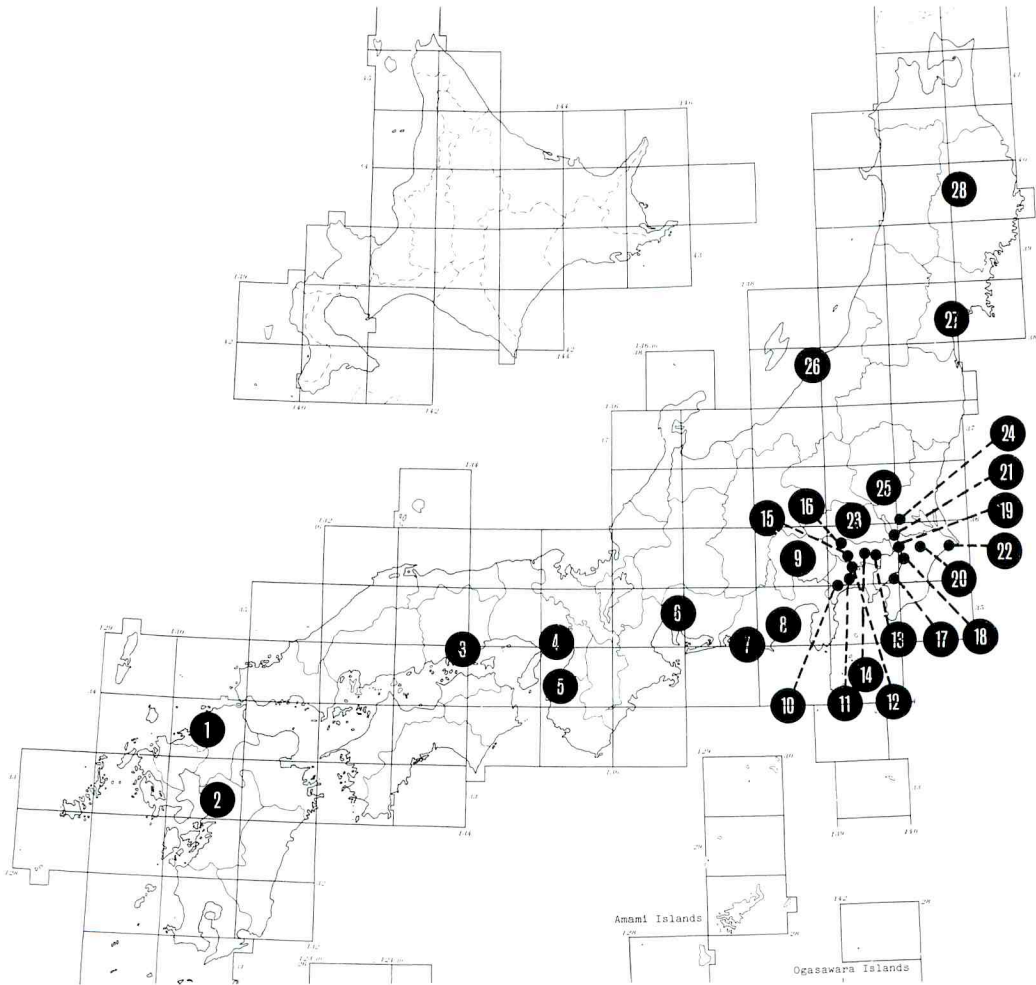


図 2. 空中花粉の調査地点（施設名は表 1 参照）

表 1 調査地点(施設名)と飛散開始日

1. 福岡県福岡市 国立療養所南福岡病院, 地上約15m 飛散開始日: 2月13日	13. 東京都文京区 東京医科歯科大学医学部研究棟, 地上約29m 飛散開始日: 2月23日
2. 熊本県熊本市 熊本大学医学部研究棟, 地上約23m 飛散開始日: 2月17日	14. 東京都杉並区 杉並西保健所, 地上約11m 飛散開始日: 2月22日, ロータリー型, 2月20日
3. 岡山県岡山市 岡山理科大学, 地上約15m 飛散開始日: 2月26日, ロータリー型, 2月23日	15. 東京都八王子市 八王子保健所, 地上約6m 飛散開始日: 3月5日, ロータリー型, 2月20日
4. 兵庫県西宮市 中原耳鼻咽喉科医院, 地上1.5m 飛散開始日: 2月23日	16. 東京都青梅市 青梅保健所, 地上約8m 飛散開始日: 2月27日, ロータリー型, 2月22日
5. 和歌山県和歌山市 和歌山赤十字病院, 地上約15m 飛散開始日: 2月26日	17. 千葉県木更津市 君津中央病院, 地上約20m 飛散開始日: 2月13日
6. 愛知県名古屋市 名古屋市立大学病院, 地上約15m 飛散開始日: 3月5日	18. 千葉県千葉市 千葉大学医学部附属病院, 地上約20m 飛散開始日: 2月13日, ロータリー型, 2月13日
7. 静岡県浜松市 県西部浜松医療センター, 地上約38m 飛散開始日: 2月14日	19. 千葉県船橋市 東邦大学薬学部, 地上約15m 飛散開始日: 2月22日, ロータリー型, 2月22日
8. 静岡県静岡市 静岡済生会総合病院, 地上約23m 飛散開始日: 2月13日	20. 千葉県印旛郡富里町 佐橋紀男自宅, 地上1.5m 飛散開始日: 2月23日
9. 山梨県中巨摩郡玉穂村 山梨医科大学研究棟, 地上約23m 飛散開始日: 2月23日	21. 千葉県柏市 東洋眼科医院, 地上約21m 飛散開始日: 2月19日
10. 神奈川県南足柄市 前田祥子自宅, 地上1.5m 飛散開始日: 2月17日	22. 千葉県旭市 国保旭中央病院, 地上約20m 飛散開始日: 2月13日
11. 神奈川県伊勢原市 東海大学医学部研究棟, 地上約40m 飛散開始日: 2月17日	23. 埼玉県坂戸市 城西大学薬学部, 地上約16m 飛散開始日: 2月22日
12. 神奈川県相模原市 国立相模原病院, 地上約20m 飛散開始日: 2月21日, ロータリー型, 2月22日	24. 茨城県筑波郡谷田部町 気象研究所, 地上約23m 飛散開始日: 3月3日
	25. 栃木県下都賀郡壬生町獨

- | | |
|---|---------------------------|
| 獨協医科大学研究棟，地上約40 m
飛散開始日：2月21日 | 9. 同大学耳鼻咽喉科学教室，久松建一 |
| 26. 新潟県新潟市
藤崎医院，地上2.6 m
飛散開始日：3月8日 | 10. 前田祥子 |
| 27. 宮城県仙台市
東北大学医学部附属病院，地上約23m
飛散開始日：3月9日 | 11. 同大学眼科学教室，三国郁夫 |
| 28. 岩手県盛岡市
佐藤耳鼻咽喉科医院，地上約20 m
飛散開始日：2月23日，ロータリー型，2月24日 | 12. 同病院アレルギー研究部，相馬幸子 |
| | 13. 同大学耳鼻咽喉科学教室，斉藤洋三 |
| | 14. } |
| | 15. } 東京都衛生局医療福祉部 |
| | 16. } 公害保健課の速報資料による |
| | 17. 同病院薬剤科，飯塚正三，紺野信子 |
| | 18. 同大学耳鼻咽喉科学教室，藤田洋祐，片桐仁一 |
| | 19. } |
| | 20. } 同大学生薬学教室，佐橋紀男 |
| | 21. 同医院長，棚橋雄平 |
| | 22. 同病院薬剤科，大三川裕康，菅谷誠 |
| | 23. 同大学生薬材科学教室，菅谷愛子，保田和美 |
| | 24. 同研究所応用気象，根本修 |
| | 25. 同大学耳鼻咽喉科学教室，古内一郎，王主栄 |
| | 26. 同医院長，藤崎洋子 |
| | 27. 同大学耳鼻咽喉科学教室，高坂知節 |
| | 28. 同医院長，佐藤護人 |

表2 調査協力者，(表1の施設番号順)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 同病院医局，岸川禮子 | 22. 同病院薬剤科，大三川裕康，菅谷誠 |
| 2. 同大学耳鼻咽喉科，石川哮 | 23. 同大学生薬材科学教室，菅谷愛子，保田和美 |
| 3. 同大学理学部基礎理学科生物，三好教夫 | 24. 同研究所応用気象，根本修 |
| 4. 同医院長，中原聡 | 25. 同大学耳鼻咽喉科学教室，古内一郎，王主栄 |
| 5. 同病院耳鼻咽喉科，榎本雅夫，生駒貴子 | 26. 同医院長，藤崎洋子 |
| 6. 同大学耳鼻咽喉科学教室，馬場俊吉，横田明 | 27. 同大学耳鼻咽喉科学教室，高坂知節 |
| 7. 同医療センター耳鼻咽喉科，宇佐神篤 | 28. 同医院長，佐藤護人 |
| 8. 同病院耳鼻咽喉科，矢島洋，木村廣行 | |

引用文献

- (1) 長野 準、勝田満江、信太隆夫：日本列島の空中花粉，北隆館，東京（1978）。
- (2) 佐橋紀男：花粉誌 30 (1)、75-77（1984）。

(受理日 1986年4月30日)

